

第3回地域夢・未来カフェ in 多田東

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 多田東」が開催されました。

日時：2012年2月3日（日）14:00～16:00

場所：多田東会館

参加人数：市民21名＋市WGメンバー2名

当日のスケジュール

- 14:00 開会
- 14:05 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 14:10 イントロダクション
- 14:20 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 15:35 グループ発表
- 15:55 今後の流れの説明
- 16:00 閉会

当日スケジュール説明～イントロダクション

開会のあいさつの後、前回のふりかえりと当日のスケジュールの説明がありました。その後、アイスブレイク「喪失体験」を行いました。付箋に「友人」「健康」「趣味」「お金」「役割」「仕事」という6つのキーワードを書き、ジャンケンに負けると1枚ずつ破っていくゲームです。残った付箋は人によりさまざまで、参加者の中でも価値観が異なっていることを体感しました。また、6つのキーワードは、年をとるごとに失っていくものですが、地域活動等を行うことで新しく得ることもできるという話もありました。



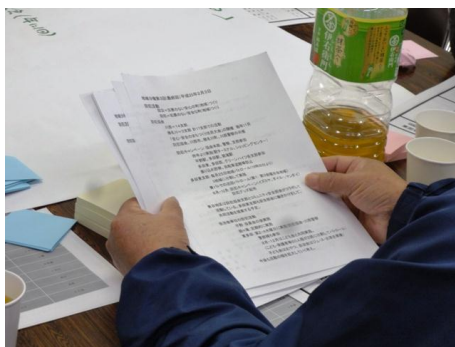
テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：子育てしやすいまちにする
- Bグループ：地域活動が活発なまちにする
- Cグループ：誰もが交流できるまちにする
- Dグループ：安心・安全なまちにする

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案については、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは、子育てニーズとそれに応じられる人材をつなぐ方法などについて、Bグループでは若い世代への地域活動のPR方法などについて、Cグループでは、地域の交流促進の方法などについて、そしてDグループでは、地域の連帯感、防犯意識の向上などについての話し合いが行われ、発表されました。



Aグループ 子育てしやすいまちにする

多田東の強み

- ・子育て世代が多い
- ・働く環境として良い
- ・保育園などのサポートが充実している
- ・原風景や原体験ができる

拠点づくりについて

- ・定期的に集まれる場づくり
- ・空き家を使えないか？
- ・学校はクラブ活動が多くて難しい
- ・新たな拠点づくりは難しい

システムづくり

- ・譲りますと欲しいですの交換
- ・ボランティアしたい人と受けたい人のチケット交換

地域でしたいこと

- ・若いお父さんや現役子育て中の人、学生さんが新しく活躍できるようなこと
- ・得意分野のリスト

市にサポートしてほしいこと

- ・情報提供（個人情報や学区情報）
- ・ボランティア支援
- ・プログラム支援

子育て支援でしたいこと

- ・夏休みのラジオ体操の復活
- ・子ども会OBとして参加できたら
- ・世話役を気軽にできるシステム作り
- ・トライやる（中学校）後の交流
- ・高齢者施設との交流
- ・地域住民同士が友だちになる
- ・3世代対抗の交流スポーツ大会

子育て支援でできること

- ・近所の子どもへのあいさつ
- ・地域の子への声かけ
- ・子どもを褒めたり注意したりする

Bグループ 地域活動が活発なまちにする

地域行事について

- ・楽しい遊びで人を呼ぶ
- ・運動会などのイベントをする
- ・既存のイベントに新要素を盛り込む
- ・ギネスに挑戦、川西探検など
- ・多田東でしかできない行事を企画する
- ・地元ならではのイベントをする
- ・スタッフを地域外でも募集する

情報発信

- ・とんど祭り（中止情報などがネットに出ていない）
- ・メルマガ、チラシ、HP、駅でのビラ貼りを活用する
- ・facebook や twitter などの SNS を活用する
- ・コミュニティや自治会などに若い人を入れる

第一歩として必要な活動

- ・コミュニティに若者部を作る
- ・生徒会を巻き込む、若者の意見を聞く
- ・社会奉仕活動に参加してもらう
- ・地域の歴史を知る

企業事業者

- ・企業にも祭りに参加してもらう
- ・トヨペットのエコバック
- ・コミュニティが一元窓口になって企業に提案してみる

その他

- ・学校と自治会・コミュニティとの交流を広げる

Cグループ 誰もが交流できるまちにする

ハイタッチあいさつについて

- ・高齢者、子ども、誰でも参加できるイベント
- ・駅前・通学路・スーパー前であいさつ
- ・学校の見守りも兼ねる
- ・挨拶だけでなく、情報ビラも配布する
- ・必要なもの：ハッピー、帽子など
- ・活動主体：自治会・老人会、興味のある人に参加してもらう

日帰り旅行（視察を兼ねる）について

- ・移動手段：マイクロバス
- ・お風呂で語り合う
- ・ハイタッチ挨拶しているところを見に行く
- ・防災施設の見学

路上バーベキューについて

- ・食べることをプラスする
- ・ギネスに挑戦する
- ・場所はトラック市や多田東小学校でもできる
- ・道路なら市に確保してもらう
- ・公園で実施するなら消防の許可がいる
- ・地域のお店と連携し、野菜は農協から、肉はイズミヤから購入する

地域分権

組織

- ・新しい交流グループを立ち上げる
- ・コミュニティの中で必要なメンバーで実行委員会

組織メンバー

- ・委員を公募する
- ・有償ボランティアなのか無償ボランティアなのか？

地域担当職員の役割

- ・苦情を聞くだけではなく、専門性のある人

連携について

- ・既存の団体と連携する

お金の使い方

- ・予算の額に応じて行う
- ・繰り越して使えるようにしてほしい

地域に移譲すべきではないこと

- ・責任が伴うものは移譲すべきではない

Dグループ 安心・安全なまちにする

防犯協会について

- ・安心安全まちづくり住民大会（年に1回）
- ・防犯キャンペーン、地域パトロール
- ・自治会単位の防犯活動
- ・組織同志の連携（東谷地区）

課題

- ・地域住民のつながりが薄い
- ・住民が見て見ぬふり
- ・自分で気をつけていない
- ・地域の連帯感や防犯意識の低下が少年犯罪や振り込め詐欺などにつながっている

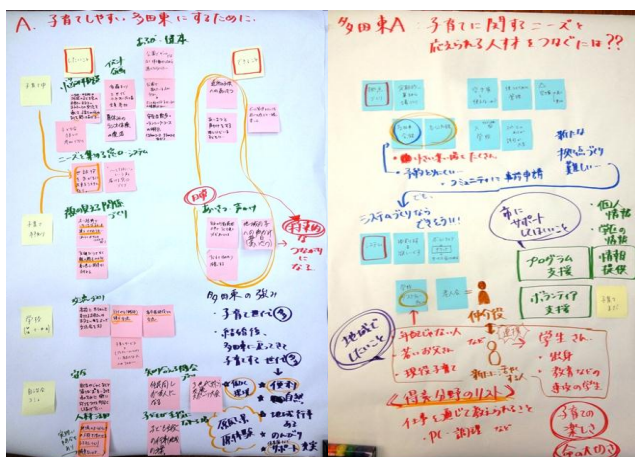
解決策

- ・行政窓口の一本化
- ・あいさつ運動
- ・小学生等に防犯教室の開催
- ・青パト巡回時に防犯のアピール

地域分権について

- ・コミュニティ活動など、今の組織を見直す
- ・地域全体での組織づくり
- ・予算の使い方を考えるべき
- ・各種団体の一本化
- ・地域担当職員の指導性の発揮

Aグループ 子育てしやすいまちにする



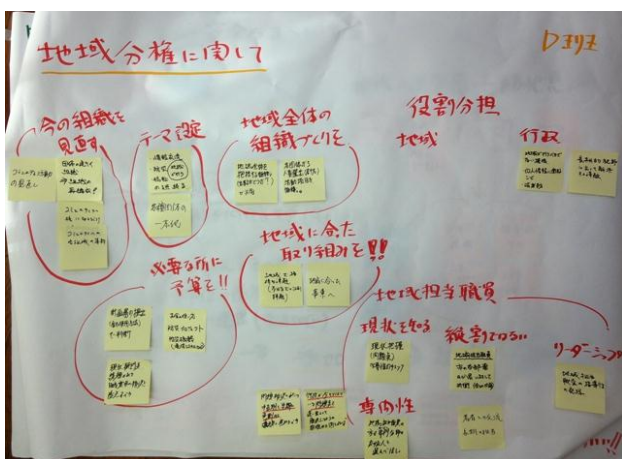
Bグループ 地域活動が活発なまちにする



Dグループ 安心・安全なまちにする



Cグループ 誰もが交流できるまちにする



各グループの模造紙画像